

【短報】西日本から確認されたベニヨツボシテントウダマシ

ベニヨツボシテントウダマシ *Ancylopus phungi* Pic は、日本全域に分布するヨツボシテントウダマシ *Ancylopus pictus asiaticus* Strohecker に似ているが、上翅の斑紋や雄の中後脚脛節などの違いで区別できる (Sogoh & Yoshitomi, 2017). 本種は Strohecker (1972) によって日本から初めて記録されたものの、その後長らく記録がなく、最近になって著者の一人である十川らの研究により再確認された (Sogoh & Yoshitomi, 2017).

本種は、日本においてはこれまで東日本 (北海道～長野県) から得られているのみである (Sogoh & Yoshitomi, 2017). 筆者らは、西日本各地から本種を見出したので、次の通り記録する。

なお、検した標本の保存場所は次のとおりである：庄原市立比和自然科学博物館 (HIWA)；倉敷市立自然史博物館 (KURA)；九州大学総合研究博物館 (KUMJ). 倉敷市立自然史博物館所蔵の標本については、データ末に丸括弧で同館の登録番号 (KURA JI *****) を示した。

検視標本：[福井県] 1♂ (KUMJ), 白山, 20. VII. 1964, H. Kamiya 採集. [岡山県] 1♀ (KURA), 倉敷市酒津, 9. IV. 1989, 青野孝昭採集 (KURA JI 6928)；1♂ (KURA), 同左, 14. X. 1989 (KURA JI 10383)；2♀ (KURA), 同左, 6. IX. 2000, ウエスコ採集 (KURA JI 60738, 60739)；1♂1♀ (KURA), 同左, 7. IX. 2000 (KURA JI 60618, 60619)；2♂ (KURA), 倉敷市西阿知町西原, 18. I. 1987, 青野孝昭採集

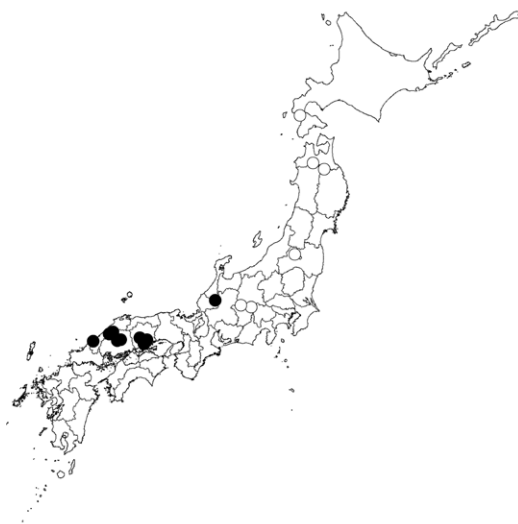


図1. ベニヨツボシテントウダマシ分布図. ○：既知の記録地点 (Sogoh & Yoshitomi, 2017)；●：今回の記録地点.

(KURA JI 5613-1, 2)；1♂ (KURA), 総社市井尻野, 8. V. 2000, ウエスコ採集 (KURA JI 68699)；1♂ (KURA), 総社市美袋 (下倉橋), 28. I. 1988, 青野孝昭採集 (KURA JI 6901)；1♀ (KUMJ), 高梁市臥牛山, 29. V. 1977, 直海俊一郎採集；1♂ (KURA), 高梁市川面町押野, 30. I. 1988, 青野孝昭採集 (KURA JI 6956)；2♀ (KURA), 高梁市成羽町成羽字小滝, 4. II. 1988, 青野孝昭採集 (KURA JI 6996-1, 2). [島根県] 1♀ (HIWA), 川本町因原 (江の川・濁川合流点), 4. VIII. 1994, 中村慎吾採集 (松田・中村, 1999)；1♂1♀ (HIWA), 同左, 23. IX. 1994 (松田・中村, 1999)；2♂3♀ (HIWA), 同左, 12. V. 1999 (松田・中村, 1999)；1♂3♀ (HIWA), 同左, 11. VIII. 1999 (松田・中村, 1999)；1♂1♀ (HIWA), 同左, 13. V. 2004 (亀山ほか, 2009)；2♂2♀ (HIWA), 同左, 14. V. 2004 (亀山ほか, 2009)；3♂1♀ (HIWA), 同左, 13. VII. 2004 (亀山ほか, 2009)；1♀ (HIWA), 同左, 6. X. 2004 (亀山ほか, 2009)；3♂4♀ (HIWA), 同左, 7. X. 2004 (亀山ほか, 2009)；1♀ (HIWA), 江津市桜江町川越 (江の川左岸), 24. IX. 1994, 中村慎吾採集 (松田・中村, 1999)；1♀ (HIWA), 同左, 13. V. 1999 (松田・中村, 1999)；1♀ (HIWA), 同左, 12. VII. 2004 (亀山ほか, 2009)；1♂ (HIWA), 同左, 13. VII. 2004 (亀山ほか, 2009)；1♂ (HIWA), 美郷町信喜 (江の川左岸), 7. VIII. 1994, 中村慎吾採集 (松田・中村, 1999)；1♂ (HIWA), 同左, 11. V. 1999 (松田・中村, 1999)；1♀ (HIWA), 同左, 17. V. 1999 (松田・中村, 1999)；1♂ (HIWA), 同左, 17. X. 1999 (松田・中村, 1999)；1♂ (HIWA), 美郷町浜原 (江の川右岸), 11. V. 1999, 中村慎吾採集 (松田・中村, 1999)；1♀ (HIWA), 同左, 13. VII. 2004 (亀山ほか, 2009)；1♀ (HIWA), 同左, 6. X. 2004 (亀山ほか, 2009)；1♀ (HIWA), 邑南町引城 (江の川左岸), 27. X. 1994, 中村慎吾採集 (松田・中村, 1999)；1♀ (HIWA), 同左, 9. VIII. 1999 (松田・中村, 1999)；1♀ (HIWA), 益田市高津町 (高津川右岸), 9. V. 2005, 中村慎吾採集 (中村・羽尻, 2007)；1♀ (HIWA), 益田市安富町 (高津川左岸), 27. VII. 2005, 中村慎吾採集 (中村・羽尻, 2007). [広島県] 1♀ (HIWA), 三次市向江田町, 6. V. 1996, 中村慎吾採集 (中村ほか, 1998)；1♀ (HIWA), 三次市秋町 (江の川左岸), 4. X. 2004, 中村慎吾採集 (亀山ほか, 2009)；1♂ (HIWA), 安芸高田市高宮町梶矢 (江の川左岸), 15. VII. 2004, 中村慎吾採集 (亀山ほか, 2009).

上述の通り、これまで記録のなかった福井、岡山、島根、広島の各県から本種を見出した。

中国地方では中国山地から山陰・山陽の平野部にかけて複数の地点で見出されたことから、広範囲に

分布している可能性が高い。また、今回の記録により中部・近畿に分布の空白地が存在することになった。これらの地域からの発見が期待される。

庄原市立比和自然科学博物館に収蔵されている、広島・島根両県各地の調査で得られた多数（約300頭）のヨツボシテントウダマシ属の標本を検したが、本種が得られている地点は圧倒的に少なく、局地的な分布を示すように思われる。江の川流域では見出された地点が多いが、偏りが大きい。島根県川本町因原では例外的に多数の本種が得られており、その一方でヨツボシテントウダマシはほとんど得られていない。当所ではヨツボシテントウダマシよりも優占している可能性が示唆されるが、現時点では定性的な調査のみであり、定量的な調査が必要であろう。また、岡山県では総社市や倉敷市などの平野部でも得られている一方で、広島県では福山市の芦田川や広島市の太田川の調査の試料を再検討したものの、本種は見出されなかった。

Sogoh & Yoshitomi (2017) では多数の四国産ヨツボシテントウダマシ属の標本を検しているものの、本種は検することができていない。広範囲に分布する可能性が示唆される中国地方の状況とは対照的で興味深い。一方で前述のように局地的な分布をしているために発見されていないとも考えられる。

最後になったが、収蔵標本の調査に関して便宜を図っていただいた丸山宗利博士（九州大学総合研究博物館）、奥島雄一博士（倉敷市立自然史博物館）、進藤眞基氏ならびに藤田浩司氏（庄原市立比和自然科学博物館）、本稿を校閲してくださり有益な助言をいただいた吉富博之博士（愛媛大学ミュージアム）に厚くお礼申し上げる。

引用文献

- 亀山 剛・西 真弘・中村慎吾, 2009. 江の川の昆虫類 2004年の調査結果. 比和自然科学博物館研究報告, (50): 1-209.
- 松田 賢・中村慎吾, 1999. 江の川水系の昆虫類. 比和自然科学博物館研究報告, (37): 39-176.
- 中村慎吾・野嶋宏一・藤井陽子, 1998. 広島県世羅台地の昆虫類. 比婆科学, (186):1-122.
- 中村慎吾・羽尻光宏, 2007. 島根県高津川の昆虫類 2005年の調査結果. 比和自然科学博物館研究報告, (48): 103-264.
- Sogoh, K. & H. Yoshitomi, 2017. A revision of the genus *Ancylopus* (Coleoptera, Endomychidae) of Japan. *Elytra*, Tokyo, New Series, 7: 421-438.
- Strohecker, H. F., 1972. The genus *Ancylopus* in Asia and Europe (Coleoptera: Endomychidae). *Pacific Insects*, 14 (4): 703-708.

(千田喜博 727-0301 庄原市比和町比和 1119-1 庄原市立比和自然科学博物館)
(十川晃一 790-8577 松山市樽味 3-5-7 愛媛大学大学院農学研究科環境昆虫学研究室)

【短報】チビシギゾウムシをヤマブドウから採集

チビシギゾウムシ *Archarius chibi* (Kôno) は、札幌市藻岩山を模式産地として記載され (Kôno, 1930)、その後、本州からは青森県（下山ほか, 1986）および岐阜県（野平, 1986）から、四国からは徳島県（久米, 2009）から初めて記録された。その後も北海道、および本州の東北地方、中部地方の各県からは追加記録が報告されているが、いずれの採集例もピーティングやスウィーピングで偶然得られたものであり、生活史解明につながる知見は得られていないものと思われる。筆者は長野県において本種をヤマブドウから複数個体採集しているので、採集状況を報告する。

4頭, 長野県茅野市春日溪谷, 30. VI. 2012 (図1)。

はじめ、バッコヤナギ *Salix bakko* と思われるヤナギ類に巻き付いていたヤマブドウ *Vitis coignetiae* Pulliat ex Planch (図2) のスウィーピングで2頭が得られた。本属はヤナギ類から採集される種が多いため、当初はヤナギ類の方を重点的にスウィーピングしたが、同属のムラカミチビシギゾウムシ *Archarius murakamii* (Morimoto) が得られたのみで、本種は得られなかった。

そこで改めてヤマブドウをスウィーピングしたところ、新たに2頭を追加できた。本種は体長2ミリ前後と小さいが、背面の特徴的な斑紋から、野外でもムラカミチビシギゾウムシと明確に区別できた。

本属の種はこれまでブナ科やヤナ



図1. チビシギゾウムシ。



図2. チビシギゾウムシが得られたヤマブドウ。